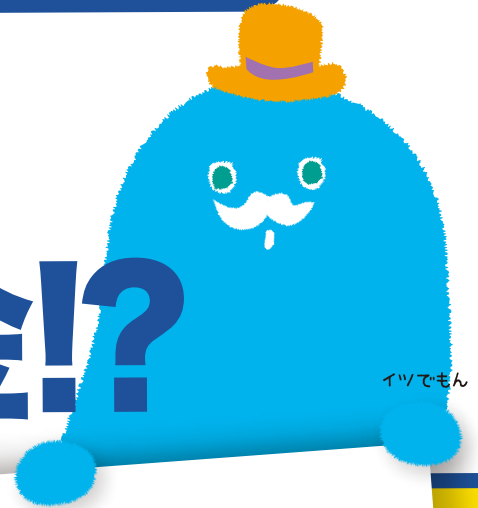
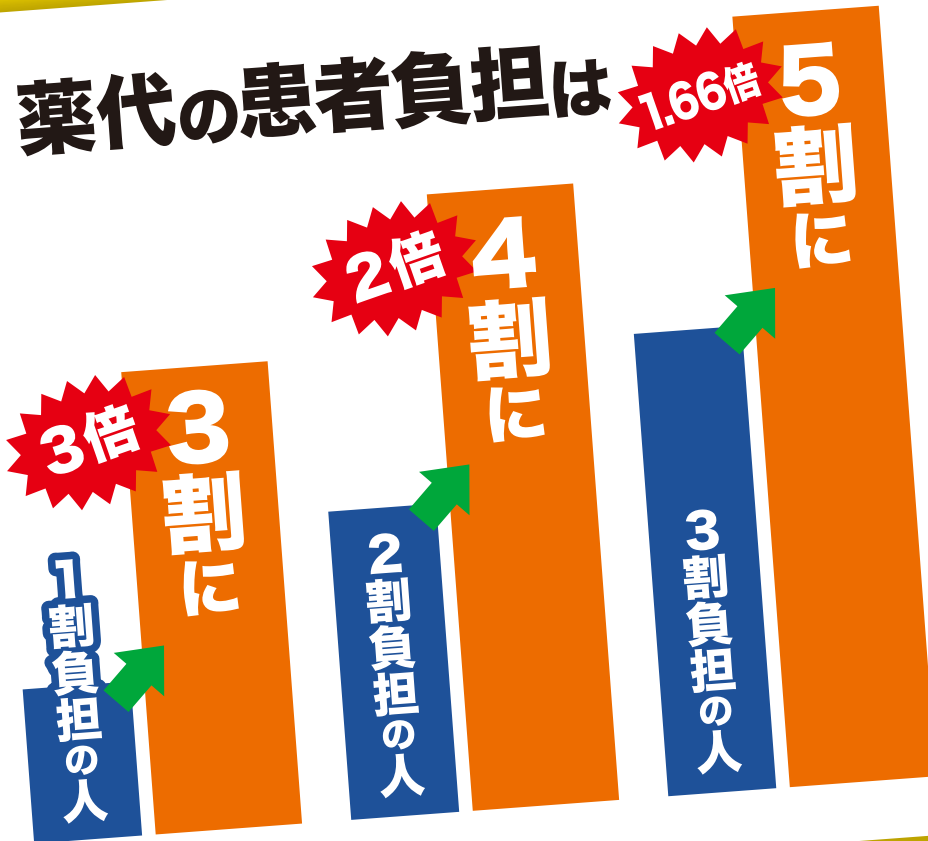


保険料も窓口負担(1~3割)も払っているのに

いつもの薬に +25%の追加料金!?



薬代の患者負担は



※実質的な負担割合

医療費の削減額は
約900億円で、
一人当たりに
換算すると月63円の
「軽減」にすぎない。



約1100品目が負担増の対象に

消炎鎮痛(痛み止め)

・ロキソニン



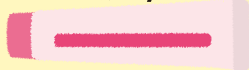
抗アレルギー薬

・アレグラ
・フェキソフェナジン



保湿剤

・ヒルドイド
ソフト軟膏/ローション



下剤(便秘)・制酸薬

・マグミット



去痰薬(痰切り)

・カルボシステイン



ステロイド剤

・リンデロン-V軟膏



私たちの
よく使う薬の
負担を増やして
保険料軽減!?

その前に
やるべき
こと!

国の負担割合を増やす

大企業の内部留保を
働く人に還元し賃金UP

大企業の利益に応分の
税負担



ストップ! 患者負担増請願署名 ロキソニンやアレグラなどの 薬の追加負担はやめてください

■■■ 請 願 趣 旨 ■■■

自民・維新両党の協議を受けて、政府は77成分・約1100品目の薬について、1～3割の窓口負担とは別に、「特別料金(薬剤費の25%)」として患者に追加負担させることを決めました。対象となる薬剤は、痛み止めや花粉症治療薬、皮膚疾患の保湿剤など日常的に幅広い疾患で使われている薬です。これらの薬は「特別料金」を含めると実質的な窓口負担が1割は3割に、2割は4割に、3割は5割に増加します。

政府与党は「(受診せず)市販薬を利用している患者との公平性」を理由にあげていますが、受診が必要な患者に追加料金のペナルティーを科す道理はありません。むしろ、症状を抱えながら医療機関に受診できない国民の受診機会を確保すべきです。

また、「現役世代の保険料負担の軽減」を打ち出していますが、一人当たりの「軽減額」は月63円に過ぎず、一方で花粉症やアトピー性皮膚炎などのアレルギー性疾患に苦しむ患者など、すべての世代に負担増となります。

患者のいのち、健康を脅かす負担増の中止を求めます。

■■■ 請 願 事 項 ■■■

- ロキソニンやアレグラなど、77成分・約1100品目の薬について、追加負担をやめること

※鉛筆や「消せるボールペン」は使用しないでください。

お 名 前	ご 住 所 (「同上」「〃」は使わないでください)
	都 道 府 県
	都 道 府 県
	都 道 府 県
	都 道 府 県
	都 道 府 県

※この署名は、憲法16条で保障された請願権にもとづき行うもので、国会請願以外の目的に使用しません。

私のひとこと

【取り扱い医療機関、団体】